

## 旧街道ウォーク★341

# 古代東海道の駅路を歩こう！ 29 (三ノ輪～鐘ヶ淵～立石～国府台)

日時 ■ 2008年12月7日(日) 11:00～17:00頃

集合 ■ 地下鉄日比谷線／三ノ輪駅(3番出口地上)

※上野から2駅4分。ホーム北千住側の階段を上がって下さい。

コース ■ 三ノ輪(大関横丁・浄閑寺)～南千住(回向院)～水神大橋(白髭東防災拠点)～鐘ヶ淵<休憩>～四ツ木～立石<中休>～奥戸～北小岩～国府台(下総国府)<街道ルート約12km>

その他 ■ 雨天の場合は延期します(日程未定)。判断がつかない場合は、主催者までご連絡下さい。

連絡先 ■ 大竹 亮(旧街道ウォーク代表、NPO全国街道交流会議理事)

### ■今回の活動について

武蔵国の古代東海道を、武蔵国府(府中)から下総国府(市川)に向けて4回で歩いていますが、今回はいよいよ4回目(最終回)です。まず、三ノ輪から南千住を経て隅田川の水神大橋を渡りますが、往古にはここは利根川・入間川が合流した大河(住田河)であったそうです。この先、鐘ヶ淵から四ツ木・立石・奥戸を経て北小岩に至る道筋は、隅田川から江戸川までをほぼ東へ一直線に伸びており、昔から古代官道(東海道)の駅路であったと言われています。この道筋は、武蔵野台地上の豊島郡衙(西ヶ原)と下総台地上の下総国府(国府台)を、最短距離で結ぶ一直線上にあります。東西に対峙する武蔵野台地と下総台地、その間に広がる東京低地を横断する古代の駅路を実感できる貴重な区間です。1300年以上も前の道筋が現代の東京都内に残り、学説上もほぼ確証が持たれており、そこを実際に歩くことができるという奇跡に近い体験を、皆さんこの機会に是非一緒にどうぞ。

\* \* \* \*

### ■古代の道について

**古代官道：**奈良・平安の中央集権国家時代には、都から全国に向けて7つの「官道」が整備されました。約16kmごとに駅家が設けられ、幅員6～12mの立派な側溝付舗装道路がほぼ一直線の最短距離で各地の国府を結んでいたとされています。従来は記録文書から推定するしかありませんでしたが、近年では各地で発掘等による発見が続き、その実態が判明しつつあります。

**古代東海道：**都から海沿いに関東に至る行政圏で、官道の名称でもあります。古代東海道の道筋は時代によって変遷し、初期の道筋は、三浦半島から房総半島へ東京湾を渡っていました。これに対し、相模国府(平塚)、武蔵国府(府中)、下総国府(市川)を経て常陸国府(石岡)へ至っていたのが中期の道筋です。当会では、1999年～2001年にかけて初期と後期の古代東海道の一部を歩いていますが、今年は中期のルートを探索しています。

### ■沿道の見どころ

**三ノ輪浄閑寺**●江戸時代に新吉原の多数の遊女を弔ったことから、通称「投げ込み寺」として知られる。

**千住回向院**●本所回向院の別院として、行路病死者や小塚原刑場の刑死者など無縁仏供養のために開かれた。

**隅田川**●古代には入間川と利根川が合流して広大な住田河となっており、武蔵・下総国境の渡し場であった。

**白髭東防災拠点**●関東大震災の再来に備え、長大な高層住棟群が万里の長城のように連なる広域避難地。

鉄製ゲート、司令塔、放水銃、防火シャッター、スプリンクラーを備えた姿は巨大な要塞のよう。

**立石様**●立石の地名や遺構は全国の古代官道沿いに多く存在することから、道標であったとする説もある。

**下総国府**●江戸川東岸にそびえる丘・市川国府台の和洋女子大付近にあったとされる。古代東海道・井上駅の推定地であり、ここで常陸国府(石岡)への本道と上総国府(市原)への支道に分岐する。